

子安地藏尊大法会

7月24日(水) 午前8時より



轉法輪

信心とは、
ちやうじやう
 一に澄淨じやうじやうの義。

弘法大師

令和元年七月一日発行
 発行所 犬飼山轉法輪寺
 〒六三七一〇〇七二
 奈良県五條市犬飼町一二四
 電話〇七四七二二一四四〇三
 FAX〇七四七一五一四七一七
 編集発行人 桑山聖淳
 印刷所 森本印刷工業所
 和・伊都郡かつらぎ町妙寺

地藏尊法要

蓮が葉を伸ばし、睡蓮は可愛らしい花を咲かせています。夏の風物詩が境内を彩ると、また季節が巡ってきたことを感じます。
 七月二十四日は子安地藏尊大法会を行います。水児の供養、安産子授け、子どもたちの無事成長をお地藏さまに御祈願いたします。暑さきびしい折ですが、皆さまのご参拝お待ちしております。

地藏堂にて 午前八時

永代供養水子幼没霊の御回向

大教室にて 午前九時半

水児幼没霊・先祖諸霊供養

安産子授・子育て祈願

千灯供養境内にて 午前十一時

昼食接待

クラシックコンサート開催

ベルギーからの来日公演!

地元のこどもたちの

ダンスステージ

一生懸命練習しています!

見に来てくださいね!

犬飼山轉法輪寺

お大師さまのお言葉 信仰することは、まず自身の心を澄ませて清らかにすることです。心が澄んで落ち着けば、次第に自分の進む道が明らかになってきます。

親をゆるさない人は
自分も子どもから
疎遠にされる



轉法輪寺住職 桑山慈紹

先日お伺いした話です。
「私には年老いた母がいます。ただ、母とは長らく別々に暮らしています。……母は私を産んですぐに、家を出て行ったのです。」

「母はそのあと子連れの男性と再婚しましたが、母自身には子どもができませんでした。血の繋がっていない子どもとの折り合いが悪くなったのでしょうか、今になって私に近づいてきました。」

「私には、母の振る舞いは自己中心的で、わがままに思えます。すぐに受け入れる気持ちにはなれません。でも、一人ぼっちで孤独死などさせたくない。せめて、老人ホームにでも、ほり込もうかと思っています……。」

私にはその言葉にひっかかるものを感じ、「ほり込んで、はないでしょう。入って頂いて、と言って下さいヨ」と言いながら、親子が円満にゆくにはどうしたら良いのかお話を続けました。

不仲な因縁が切れるためには、ただ御祈禱のみで出来るものではありません。あなた自身が心の底からお母さんを許すことです。自分が母か

ら十分な愛情を受けることが出来なかったことを認め、親子の縁の薄さをかえりみたらうえで、母を哀れに思い、幸せを祈ることです。

因果の法則は冷たく厳しいものです。まいた種は必ず生えてきます。しかし、親子の絆は、それを乗り越える力が秘められていると思います。許しの祈りは、身にまつわる過去を浄め、明日へ導く開運の祈りになります。いま大事に育てているあなたの子どもが親想いの優しい子に育つかは、お母さんを責めずに許すことができるかも関わってくるのです……。その祈りは浄業となり、かならず神仏の慈悲が輝くことでしょう。功德積の浄業は他にも、墓参り、写経、霊場参り、社寺や地域への奉仕行などがあります。根気よく、ただ根気よく続けることが開運につながるかと考えられます。一歩ずつ精進努力することが悪因縁を切る方法と申せましょう。

輪

法

轉

(3)

生かせいのち

【第六十二話】

名誉住職 桑山聖規



令和と年号が改まり、はや二か月が経ちました。これからも平和で争いの無い、共存共栄の世界となるよ

うに願うばかりです。各国には今もなお大量破壊兵器を使うボタンがあり、また利害関係での経済戦争も起ころうとしています。これらが発動するとき、世界は地上の地獄となることでしょう。

佛教では、魂は地獄・餓鬼・畜生・阿修羅・人・天の六道を輪廻すると説かれます。地獄道は八寒八熱の苦しみ、餓鬼道は食べ物がなく取りあぬ世界、畜生道は恥を恥とも思わぬ世界、阿修羅とは常に争いの絶えない世界、あとは人の住む世界と天人が住む世界に分かれます。人の世界から旅立つと、今までの行いによって次の行き先が決まります。十善戒に説かれるように、釈迦如来は善業を積み、より良い世界へと導かれるように指針を示して下さっています。お寺や教会を、自分の都合の良い様に祈るところだと思つて参拝される方は多くありますが、それは違

います。貪欲、瞋恚、愚痴の三毒を手離して、我欲をつつしみ心を整える場所であります。

さて、来たる七月二十四日は子安地蔵尊の大祭です。戦後には、子どもを多く産まないように妊娠中絶をする方が多くありました。親の愛を信じて母の胎内に宿った子どもにとつてはあまりに可哀そうなことです。その罪から、母親は足腰や肩の痛み、ノイローゼ等を訴えてお寺に來られました。このような親子を救うために子安地蔵尊をお祀りしたことが始まりです。

当法会では永代供養に祀られる一千余体の水児と、檀信徒皆様の有縁諸霊追善菩提、また安産子授けの御祈願を修行致します。午前八時より地蔵堂でのお勤め、九時半より大教堂で法要を厳修させて頂きます。大変有難い大法会に皆さまお誘い合わせのうえご参拝下さいませ。合掌

水子の個人供養を受け付けています。毎日9時、11時、14時、16時からお勤めを致します。

灯籠ズイカ^{とうろう}

坂田笑津子

夫がスイカ作りに励んでいる。子どもたちが小さい頃もよく作ってくれたが、孫にも甘いスイカを食べさせたいと、今年は並々ならぬ力の入れようだ。親は、子や孫においしいものを、おなかいっぱい食べさせたいと思うものだ。

今は亡き私の両親もそうだった。夏休みになると、廊下の隅にはスイカがゴロゴロと転がっていた。質より量を取ったのか、小さくて甘くないスイカもあったが、それらは子どもたちの格好の玩具になった。中身をくりぬいて灯籠を作るのだ。

彫刻刀で、まず口の部分を大きめに切り取り、そこからスプーンを入れて中身を削り出す。白い部分を少し残して皮だけにすると、目を開ける。スイカのお尻から刺したくぎに

ロウソクを立てれば完成だ。

私達は「灯籠ズイカ」と呼んでいた。目や口の形で怖い顔にも見えるので、暗闇の中、「お化けだぞー」と怖がらせ合ったりもした。

昼は川で思いっきり泳ぎ、疲れて帰るとスイカをおなかいっぱい食べて昼寝。夏休みには楽しい思い出がいっぱいある。それは両親がかわいがって育ててくれたからだろう。

後に、父と母は縁を解いたが、そのことで私が横道にそれることはなかった。心の土台が築かれる時期に、愛情を持って、しっかりと育ててくれたからだと思う。

灯籠ズイカを思い出すと、あの頃は確かに両親は心を合わせて育ててくれたと信じる事ができて、心は満たされる。



お四国遍路の

思い出

五條市

M・U

また今年も春爛漫の好季節が廻って参りました。三月二十九日から転法輪寺四国巡拝が始まります。私も平成二年三月より、希望に胸ふくらませて参加させて戴きました。

バス二台で大勢の人に囲まれて、最初は何もわからないまま、同行の皆様にご教えて戴き、お世話になりながらのお参りでした。扇子を広げてご先祖さまと一緒に御縁を戴いた喜びが胸一杯に広がり、生かされている幸せが有難く感じられました。

バスの中では住職様の有難いお話、そして知らないことを沢山教えて戴きました。テープより流れる海岸寺住職様の衛門三郎行状記や、夫と妻

(5) 輪 法 轉

真心の物語に涙を浮かべながら聞かせて戴きました。またご詠歌をお唱えしたり、ボケナイ小唄をみんなで合唱したりして、楽しくお参りを続けました。

すこし休んでいたこともありましたが、主人が帰らぬ人となり、ご先祖さまと主人のために毎年欠かさずお参りさせて戴きました。その間に私も脳梗塞になったり、転倒して苦しい思いをしましたが、住職様のお



加持を戴き、金剛杖にすがって南無大師遍照金剛とお唱えし、助けて戴きながらのお参りでした。

まだまだお四国参りを続けたく思いますが、八十九才になって体力に限界があり、同行の皆様方にご迷惑をおかけしては申し訳なく思いますので、そろそろ休止符を打たせて戴きたいと思えます。

思い出すのは、第六番安楽寺の薬師如来さま、十九番立江寺の地藏菩薩さま、七十五番善通寺の薬師如来さま、それぞれの大きな仏様の御前に頷びいたとき、心が洗われる思いで頭の中にお姿を焼き付けたこと。今も目を閉じれば浮かんでくるお姿に、手を合わせています。また五十一番石手寺、七十一番弥谷寺のお大師様の暖かいお姿の御前で、同行二人のご詠歌をお唱えさせて戴き、難所のお寺も無事にお参り出来ましたことこの御礼と感謝の心を捧げたこともありました。
長い年月をご一緒させて戴きまし

た住職様、同行の皆様方にはご迷惑をおかけし、またお世話になり助けて戴きまして、楽しくお遍路をさせて戴いたことは生涯忘れません。
これからもお遍路を続けていかれます皆様方のお幸せを念じております。
南無大師遍照金剛 合掌

よだれかけの御縁

五條市

H・T

今年の二月、主人の命日に高野山にお参りした時のこと。白く積もった雪の中に、よだれかけの赤が目にとまりました。あれっ、私の縫ったものかも……近づいてみると、やっぱり！お地藏さんが微笑んでみえて、とても嬉しく思いました。

思い起こせば、結婚した息子夫婦は長い間子宝に恵まれず、医者から

も授かりにくいと言われていました。一人だけでもいいから、と犬飼のお地蔵さまにお願いし、何カ月か続けてお参りしました。一年後、元気な女の子を授けて下さいました。

その女の子も病気ひとつなく元気に育ち、今では男の子の母親になりました。お地蔵さまには特別な御礼もせず、お四国遍路の途中で赤いよだれかけを着けたお地蔵さまが目に入り、私も今までの御礼に掛けさせて頂きたい、縫わせてもらいたいと思っただけです。

それから、数えきれないほど、よだれかけを作ってきました。それも沢山の紅白の布を提供して頂いたこと、また歳を重ね自分で掛けさせてもらいに行くことが難しくなっても、今を迎えています。これまでの御縁とお地蔵さまに感謝の気持ちで、針を進めさせて頂いています。有り難うございます。



〈お寺より〉

みなさま毎年たくさんの方の奉納ありがとうございます。作って頂いたよだれかけは、子安地蔵尊の大祭と、高野山奥の院で奉納させて頂いています。大祭にお参りされるお客様は、供養と安産子授けの祈りがこもったよだれかけをお持ち帰りください。

夏越のはらい

不動護摩

キユウリ加持

七月二十八日(日)

朝九時より



今年も暑い夏がやってきました。毎年のように「過去最高」を更新し続けられると、さすがに体にこたえますね。土用丑に「うなぎ」がたくさんスーパーに並んでいます。お大師様は「きゅうり」をオススメされています！病気の夏に負けないように、きゅうりに災いを封じ込めるご祈禱があります。

災いを封じ込めたきゅうりはご自宅に持ち帰って頂き、一週間ご祈願して頂きます。

七月のお不動様のご縁日は、「きゅうり加持」。ぜひお参りください！

準備の都合上、当日の受付は十時までとさせていただきます。お早目にご来寺ください。

ご詠歌をお唱えしたい方を募集しています。犬飼詠歌講では少人数で気遣いなくご詠歌を覚えられます。各地の巡拝でもお唱えできます。

子安地藏尊のお願い

水児供養を希望される方は、同封した
供養申込書にてお申込み下さい。
当日でも受付ます。

(供養料：一霊五百円です。)

へご奉仕のお願い

暑い時ですが、世話人様はじめ信者の
皆様のご協力をお願いします。

① 七月二十三日(火)、掃除、のぼり立て、
ちようちんつり、飾りつけなどの諸
準備。

② 当日七月二十四日(水)早朝より。

そでなし白衣・うで念珠、
または、ゆかたでお手伝い下さい。

③ 七月二十五日(木)、あとかた付け。

④ 七月三十日(火)
よだれかけ付け参り

シャトルバスのご案内

橋本駅〜轉法輪寺間の小型バスを運行します。
どうぞご利用下さい。

バス時刻表	シャトル時刻表
7:30	橋本駅発
8:30	
9:30	
10:30	
11:30	
13:30	轉法輪寺発
14:30	
15:30	

編集後記

お地藏さまの法要にむけて、今年
も子どもたちの練習が始まりました。
今のメンバーになって、もう四年目。
すっかりお寺にも慣れて、練習に集
まったらお堂の中は大騒ぎ!! 教室の
中を走り回るわ、勝手にタイコはた
たくわ……。もう、手が付けられな
いというのはこの事やな、と思いま
す笑。

なかには四年では済まず、二世代
続けて出てくれている親子もいるん
ですよ。「自分が小さい頃に出てたお
祭りに、うちの子も出るんやなと
思ったら、しみじみするなあ」と
言ってくれました。がんばって練習
して、発表できた達成感。また友達
との楽しい思い出。これが、子ども
たちが大きくなる時、とても大切な
ものになると思うのです。子どもの
宝物、それがお寺を舞台にしてくれ
るって、なんと嬉しいことでしょう。

「お寺のタイコくらい、好きなか
けただけー!!」と言ってしまいます。

私たち大人は、この子たちが希望
を持って成長できるようにしたいも
の。大人は良くも悪くも見本になり
ます。苦勞に耐えて踏ん張る姿ばか
りでは、「大人になんてなりたくない
や」となりそうじゃないですか？

理想の背中はずきつと、充実した気
持ちで、毎日を精いっぱい楽しんで
いることじゃあないかしら……。

一日の疲れ
をものともせ
ず、汗だけで
子どもたちに
踊りや歌を指
導する、パワ
フルなママ達
を見ながら、
独身の私はそ
うつぶやくの
でした。



お世話人さま募集! 檀家さんに限らず、信心を持って行事のお手伝いして
もらえる方であれば大歓迎! お大師さまの教えの輪を広げましょう。



内吉野支所職衆の読経の声が堂内に響きました。



子どもたちの献花。小さな手のひらも合掌。



大賑わいのお餅まき！「こっちこっち」と声が上がります。



初開催のマルシエも、のどかでいい雰囲気になりました！

弘法大師 正御影供盛大

去る 四月二十一日

「ありがたや 行くも帰るもとどまるも 我は大師と二人連れなり」
悩むときも病める時も…と結婚の誓いがありますが、人の世は悲しいかな、いずれは離ればなれになるものです。その悲しみを抱いた我々に、「大丈夫、私はずっと一緒にいるよ」と言って下さるのが、お大師様です。
その大いなる慈悲心に感謝を申し上げる！弘法大師正御影供。V。
ご支援ご協力頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。